

はなだより～七夕～

七夕(たなばた、しちせき)は、節供、節日の一つです。旧暦の7月7日の夜のことで、明治改暦以降、お盆が7月か8月に分かれるように、7月7日または月遅れの8月7日に分かれて七夕祭りが行われます。五節供の一つにも数えられますね!



【五節句・五節供】人日(正月7日)、上巳(3月3日)、端午(5月5日)、七夕(7月7日)、重陽(9月9日)

「棚機(たなばた)」とは、乙女が着物を織って棚に供え、神様を迎えて秋の豊作を祈ったり、人々の穢れを払うというものです。その乙女を「棚機女(たなばたつめ)」着物を織る織り機を「棚機(たなばた)」と言っていました。この行事がお盆を迎える準備として、「7月7日の夜(夕方)」に行われるようになり、「七日の夕方から神に捧げる布を織る、たなばたつめ」ということから、「七夕」と書いて「たなばた」と当て字で読むようになりました。

ではなぜ、七夕に笹竹を立てるようになったか知っていますか?七夕よりずっと以前から、笹(竹)は神聖なものとして大切に扱われていました。根強く、繁殖力も強く、風雪寒暖にも強い!その生命力と神秘性を兼ね備えた笹(竹)は、昔から神事にも使われていました。また、笹の葉の擦れ合う音は神様を招くと考えられていました。その音で天上に住むとされる先祖の霊が、地上に降りて来るように始めたのがきっかけだそうです。そのため、七夕の願い事も、神聖な笹(竹)に吊るすようになったようです。

その他にも、七夕の飾りに意味があります。五色の短冊、折鶴、神衣、財布、綱飾り、吹き流し、くずかご等…それぞれに意味や由来があります。興味のある方は是非、調べてみてくださいね!

由来や起源を知ること、どうして飾るんだろう?と思うことも納得できることばかりです!たくさんのお盆にお花が関わっていることが良くわかりますね。生活に溶け込んでいるお花を見つけてみませんか?

フラスペースデザイン部



四国へんろ道

第20番札所【霊鷲山 宝珠院 鶴林寺】(りゅうじゅざん ほうじゅいん かくりんじ)です。

【～ご詠歌～ しげりつる鶴の林をしるべにて 大師ぞいます 地蔵帝釈】

・前回ご紹介した19番札所からここ鶴林寺までおよそ14km。

「一に焼山、二にお鶴、三に太龍」と並び称される阿波の難所の一つ、「遍路ころがし」とも呼ばれる急傾斜な山道を登った先に鶴林寺があります。



ここ鶴林寺は、桓武天皇の勅願により弘法大師によって開創されました。弘法大師がこの山を訪れた際、小さな黄金のお地蔵さんを二羽の鶴が守っており、その姿に感動した大師は地蔵菩薩を刻み、その胎内に黄金のお地蔵さんを納めて本尊としたといわれています。この地蔵菩薩像は国の重要文化財で、伊勢神宮の船を暴風雨から守ったことから「波切地蔵」とも呼ばれています。山頂にいるお地蔵さまが海の上の船を守ったの?と疑問に思われたと思いますが、このお地蔵様、前のめりに立って、いつでもどこへでも飛んで人々を救うという伝説があるそうです。秋仏の為一般公開はされていないそうです。山頂にあった為、天正の兵火の難を逃れ、昔の面影が残っており厳かな雰囲気の内です。



本堂の右手にある三重塔は、江戸時代末期に、各階ごと和様と唐様と異なった建築様式で建てられたものなので一見の価値ありです。本堂左奥には、二羽の鶴がお地蔵さんを守っていたとされる杉の木もあります。険しい遍路道の道中には丁石(ちょうせき)が11基残っており、寺の距離を示すもので1丁約109メートル。南北朝時代に建立された、徳島県では最古のものとされています。

歴史の風を感じつつ大変険しい山道ではありますが、散策してみるのも良いかと思えます。今回は第21番札所【舎心山 常住院 太龍寺】をご案内します。



實好由佳

ドリーマー社員大募集!! まずはお電話を!!

ドリーマーではお客様にご満足していただけるサービスを提供するためスタッフを募集しております。

【正社員】 基本給 187,000円～293,000円

(休日/月6日、有給あり、賞与年2回、社保完備)



【献茶スタッフ】 時給 800円～1,100円 (出勤可能な希望日 要相談)

セレモニーにおける会館でのお飲み物のお配りや、式場のご案内など接客が主な仕事です。



お仕事をお考えの方!! 私たちと一緒に働きましょう!! 未経験からはじめたスタッフがほとんどです。知識経験がなくてもマンツーマン指導で、しっかりと仕事を覚えることが出来る環境です。ご連絡をお待ちしております。

【営業パート】 時給 800円～1,500円 (週4日)

冠婚葬祭においてドリーマー会員の必要性を伝えながら、会員募集営業をするお仕事です。



募集に関するお問い合わせは 0897-35-1110

担当 戸田



まもる みらい あい

葬儀の現場から ちょっとうらやましかった話

よくご葬儀が終わった後に、役所関係の手続きが大変だ…なんてことを人づてに聞いたことはありませんか?私たちドリーマーは葬儀だけにとどまらず、葬儀後の法要関係や返礼品の手配、仏具・墓石関係にわたりアフターフォローまでしっかりとさせて頂き、お客様の心配事を少しでも緩和できるように心掛けております。しかし私たちもこの役所関係の手続きだけは、各種手続きについてまとめたチェックリストなるものを葬儀後お客様に渡しご説明するのですが、代わりに手続きを…という訳にはいかず、もどかしい思いをしております。

そんな中、役所の手続きで唯一代行しているのが死亡届の提出です。お医者様から預かった死亡診断書を記入した後、届け出人の方の印鑑をお預かりして市役所へ提出するという業務です。そんなこともあり市役所へ出向くことがよくあります。

ある日の出来事です。いつものように市役所へ手続きに。その日は日曜日だったため、通常の窓口ではなく宿日直の窓口に向ったところ窓口には先客が…。幸せそうに寄り添う若いカップル、手元には見慣れない茶色の用紙が。そうです、婚姻届だったのです!幸せそうなカップルにおめでとうと心の中で祝いながらも、うらやましいなあ複雑な気持ちになりました。

いやいや、今は大事な手続き中、うらやましいなんて…。気持ちをすぐに切り替え…れたはずですが(;▽;)が、時々思い返しては、いつかは自分も茶色の用紙を提出することを妄想しております(笑)



戸田直記

